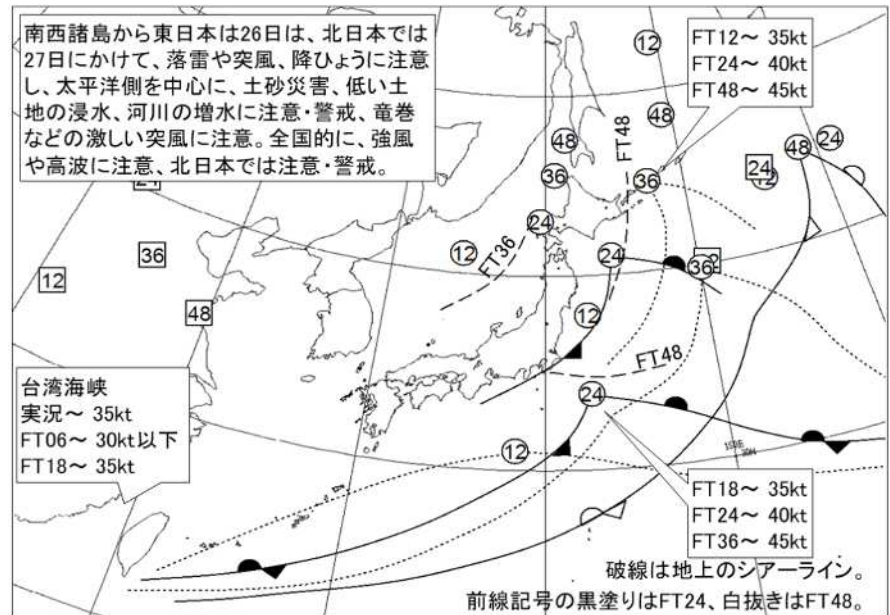


1. 実況上の着目点

① 前線が南西諸島付近～小笠原の近海に停滞しており、前線上の日本の南には低気圧があったり東北東進。

② 日本の東には高気圧があって東進。長江中流には高気圧があつてほとんど停滞。これらの高気圧と①の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、東日本～南西諸島では、やや強い風が吹いて、波の高くなっている所がある。また、日本の東の高気圧の後面の暖湿気が、東日本～西日本に流入しており、対流雲が発達し、発雷を検知。

③ アムール川中流域には 500hPa 5280m付近の-39℃以下の寒気を伴う寒冷渦があつて東南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線上の低気圧は次第に 500hPa 5700～5760mのトラフと対応が良くなり、発達しながら日本の南～日本の東を東北東～北東へ進む。一方、三陸沖には 500hPa 5760m付近の正渦度移流に対応した低気圧が26日朝までに発生し、26日夜には前線を伴い、発達しながら27日朝にかけて北海道付近を通過する。また、27日には北日本付近を地上のシアラインが通過する。北日本では27日にかけて、東日本では26日は、これらの低気圧や前線等の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項③の寒冷渦は深まりながら27日にかけて沿海州付近に、28日にはオホーツク海に進む。2項①の北海道付近を通過する低気圧は、28日にはこの寒冷渦に取り込まれて、急速に発達し、オホーツク海を反時計回りに回転する。この低気圧と2項①の日本の東へ進む低気圧の影響や、これらの低気圧と大陸の高気圧との間で、気圧の傾きが大きくなるため、北日本では27日から28日にかけて非常に強い風が吹き、東日本～南西諸島では強い風が吹いて、うねりを伴い波が高くなりしける所がある。北海道地方では強風、高波に注意・警戒し、東日本～南西諸島では強風、高波に注意。

③ 2項②の寒冷渦の通過に伴い、28日には北海道地方に 500hPaで -33℃以下のこの時期としては強い寒気が流入するため、北海道地方の日本海側を中心に大気の状態が不安定や非常に不安定となり、雷を伴った降雪となる所がある。落雷、突風、竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：伊豆諸島100mm。

② 波浪(明日まで)：北海道・東北・四国4m、その他広い範囲で3m。③ 高潮(明日まで)：東日本～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。